

新型コロナウイルス感染症

第7波感染拡大への取り組み

令和4年7月27日

日本医師会

【大前提】

地域により医療現場の状況が異なるので、地域の実情に応じた対応がぜひ必要である

現状認識 医療現場の逼迫状況

- 外来 受診希望者の急増により受け入れ困難状況が多発している
- 入院 一部の地域で病床使用率が大きく上昇しているが、まだ重症者の入院が急増してはいない

状況改善への方策

• 地域にトリアージ機能をもつ仕組みを構築

地域の行政と連携して、電話相談センターの機能を拡充し、まず①電話がつながるように、次に②相談者のうち受診がぜひ必要な対象者をトリアージし、確実に医療（最寄りの診療・検査医療機関など）につなげるとともに、③自宅で様子を見る選択をした場合の留意点の周知や、不安解消に役割を担う仕組みを構築する

• 地域外来・検査センターへの出務

自診療所で新型コロナ検査対応が困難でも、同センターへの出務を通じて地域の検査数拡大に貢献

• 自宅療養者のフォローアップ

診療所も病院も医療現場は極めて逼迫しており、ほとんど余力がない場合が多いが、可能な限り自宅療養者から求められる対応に応じるよう努める

• 高齢者施設等と協力医療機関との連携

新規感染者の増加に伴い、高齢者施設等での感染者増加が予想される。大規模クラスターの発生につなげないためには、初期対応が重要であり、行政による医師・看護師などの緊急支援チーム派遣体制整備とともに、協力医療機関には事前の施設との連携・情報交換が求められる